



戦争は多様性を否定

平和・いのち・人権

11・3 憲法 総がかり集会

憲法公布記念日の11月3日、「かがやけ憲法―平和といのちと人権と11・3おおさか総がかり集会」が扇町公園で開かれ、約3000人が参加しました。ロシアの蛮行に乗じて、敵基地攻撃能力の保有など大軍拡に走る岸田政権に対し、「とめよう大軍拡」のポテッカードアピールし、集会後パレードしました。

スペシャルゲストの岡野八代同志社大学大学院教授が講演しました。

◇ 日本は戦争・武力を永久に放棄した世界にも珍しい国。自由と平和を愛し、文化を慈しむ市民を育てる。11月3日、文化の日にはそうした意味が込められています。私にとって憲法は権力者に対する非常に重要なメッセージ。若者、高齢者、障がい者、外国人を含め、全ての人に生

きる価値がある、尊厳が備わっていることを憲法は権力者に突きつけています。決して私たちは、国のために生きていくのではありません。むしろ国こそが、私たちの尊厳をより輝かせる道具に過ぎません。日本国憲法が放棄した戦争は、国民を一丸にします。多様性は否定され、国のためにならない人を排除します。

文化と生活が大事と思う人を国会に

憲法は、人に武器を向けないでほしい、武器を持たない市民の願いに他なりません。「抑止力」「敵基地攻撃能力」を威勢よく言う人がいますが、狭く、人口が密集し、原発がある日本は、本土において戦争をする力があります。だからこそ決して武力行使しないことを約束し、対話や交渉で平和を愛する(憲法

前文)この大切さを他国にも訴えていく。それが市民を守る国の役割です。武力を持たないが故に豊かな文化を育めた文化の国として日本は胸を張ること

不登校最多24万人

子どもの権利・NGO大阪

「小中不登校最多24万人」となり、文科省はコロナ禍のストレスを指摘しましたが、増加は9年連続です。子ども権利

・NGO大阪が11月23日、不登校問題学習会を行いました。この間電話相談を継続しているNPO法人おおさか教育相談研究所の甲斐真知子さんが講演しました。

登校拒否・不登校の直接の原因は学校のあり、根本的な要因は社会にあると指摘。学校が「拒否」されていることに対する認識が深まらなければ、子どもたちを救うことはできません。

「保育所から大学まで」「金儲けのため

不登校児童・生徒在籍比率 (%)

年度	小学校			中学校		
	全国	府	市	全国	府	市
2019	0.83	0.79	0.90	3.93	4.05	6.11
2020	1.00	1.05	1.19	4.09	4.43	6.48
2021	1.30	1.46	1.47	5.00	5.35	7.59

の子育て・教育」の指摘は、まさに大阪の状況を端的に言い当てています。(分会送付の「コロナ・維新政治」禍の大阪の子どもたち―自己責任と営利化をさらに進める大阪市の教育政策」参照)

我が子を不登校にしてしまった親の自己責任を厳しく問う日本社会の中で、子ども、保護者、相談者(教職員)の対話の中でこそ、子どもたちの人間の尊厳が守られること、対話の大切さが語られました。

参加者から、「意見を聴かれる子どもの権利」の重要性、少人数学級が実現できれば、学校、教育の問題の多くは解決できるのではないかとの意見が出されました。

化し軍事大国にした人たちは私たちの生活に関心がありません。できることもいくつもあります。教育、文化助成にもっとお金を使うべき。軍事費を2倍送りましょう。



講師「2級」適用 会計年度任用改善を 賃金改善を

12月に給料改訂が行われ、「教育職給料表」では、平均改訂額6415円の値上げが実現しました。「号級」ごとの改訂額は11月17日付「大阪市教」もしくは校務支援システム(システム)で確認でき

ます。講師は「教育職給料表(2)」(小学校・中学校・義務教育学校の教員)の「1級」から自分の「号級」に該当するところを確認してください。「号級」は給与

ます。また講師も4月〜11月分の差額が12月の給与で支給されます。会計年度任用職員は、同じく12月に給与改訂が行われますが、4月にさかのぼっての「差額」支給はありません。市

労組連は改善を求めています。「教育職給料表(2)」には「1級」が講師、「2級」が正規の給料額が載っています。学校現場ではほとんど「同じ仕事」をしているのに給料表の違いで額に「2〜数万円」の差があります。大阪

大阪市対策連絡会議は学校給食無償化・少人数学級実現を求める市会陳情を11月21日に提出しました。



輪投げの店
11月5日



桜の花の掲示物
11月17日



労連学習会
11月22日

015年から大阪市の小中学校を21校を閉校し、市立障害児学校12校、市立高校21校の府立移管などをあげました。参加者からは、「大阪市は、先生にもっとゆとりを持たせてほしい」などの意見がありました。

文化とバザー おつかレインボー

支部・地域

たんぽぽ だより 12月

教育のつとめ大阪2022教科別分科会(11月12日)、問題別分科会(19日)で青年がレポート発表しました。その感想を一部紹介します。

○レポート発表を通し、子どもに向

き合ってきた日々を言葉にすることができ、とても有意義な時間となりました。また、先輩先生方が私の思いを汲み取りながら、意味づけをしてくれるので、やってきた実践に自信を持つことができた。

自ら実践が「意

味づけ」られることは、とても勇気づけられます。多忙中ですが、この経験を積み重ね、日々の教育活動に生かしていきたいです。

味つけられることは、とても勇気づけられます。多忙中ですが、この経験を積み重ね、日々の教育活動に生かしていきたいです。

北大阪支部と女性部共催の「文化とバザーのつとめ」を11月5日、北区大淀コミュニティセンターで開催しました。

バザーでは、雑貨や輪投げなど、10店舗以上が出店。また、元・「赤い風船」の長野たかし・あやこ夫妻によるコンサートでは新型コロナウイルス禍で、なかなか生演奏で聴くことが

できなかったギターと歌の力が元氣になりました。退職者の方々も元気であつたお越しい頂き同窓会のようなアットホームな雰囲気、土曜日の午後、のひとときでした。東南支部では、青年執行委員が中心になって「おつかレインボー」という学習&集いを続けています。

今回は、「子どもたちが簡単に取り組めるステキな掲示物になるものを教えてほしい」という組合員の要望にこたえる学習会を行いました。講師の島屋小学校の平尾先生が、現場の大変さを考慮して、いっぱいキットを用意してください。たくさん伝授してくださいました。そして、ちょっと難

